

2006年8月

### ハワイ公立小学校視察

ハワイの小学校の新学期は7月31日からスタートした。私がハワイに着いた日であった。今回は公立の小学校2校を視察した。ハワイ大学の付属校にも訪れたが、ここは、英語は原則的に問題ない生徒しか入学できないので、特別な EFL プログラムはないとのことであった。



最初に訪れたのは Pearl City Elementary School で、ホノルル空港からワイキキとは反対の方向に 30 分ほど車で行ったところにある。生徒数 450 人ぐらいの地元の小学校で、年長 (K) ~6 年生まで、各学年 2~3 クラスずつある。近くに基地があるので、軍関係者の家族が多い。地元の子供のほかは、移民者の

子供も 78 人いる。移民者の内訳はフィリピン人が約 1/3 で、他にミクロネシア、サモア、日本、メキシコ、ベトナム、イスラエル人である。

話しを聞かせてくださった Dr. Rose Flores はフィリピン人で大学までをフィリピンで終了、修士と博士をハワイ大学で終了している。彼女は教育委員会に所属し、1つの仕事は教師の教育で、もう1つがこの学校での ESL 担当教師である。月曜日と木曜日の終日と金曜日の午前中にこの小学校に登校し、移民の生徒の教育に当たっている。

LAS(Language Assessment Scales)という Reading/Writing のテストが2,3年生用と4~6年生用にあり、それに基づいて、ESL のクラスの授業が必要な生徒が決められる。

日系人 Mrs. Shimamoto の1年生のクラスを見学した。水曜日に担任先生が全員に理科、社会、算数を教える。他の日は、Reading/Writing のクラスが3時間あり、その内2回は英語が不十分な生徒は ESL のクラスに行き、特別授業を受ける。この日の授業は、担任の先生と ESL の先生のチームティーチングで行なわれた。私も『わらしべ長者』の絵本を読み、授業に参加させていただいた。このクラスには ESL の生徒が3人いる。まだ、新学期3日目だが、ジェスチャー付の歌を幾つか披露してくれた。その後、At school I like to ...や I don't like to when ...の後に続いて文章を作らせた。その後は、A Book About Me by というファイル作りを各自作成した。



自分の名前や絵を書いた。

毎日 **Homework** のファイルを学校と家庭の間でやり取りする。週末には親がサインをする。年に6～8回は **Parents night** を行なっており、**Parents bulletin** も頻繁に発行し、親との連絡を密にするように勤めている。**parents volunteers** の活動もある。このような親と教師の連携により、この学校はハワイ州の学力テストで上位校に認定されている。

この学校でユニークなのは、3年生と4年生の合同クラスと5年生と6年生の合同クラスがそれぞれ1クラスあることである。これは、人数の都合によるものであるが、これにより学力が低下する事はないという。

ハワイ大学の近いホノルルにある **Ala Wai Elementary School** は、いろいろな国からの



生徒が多い。日本、韓国、ハワイ、中国、マレーシア、ミクロネシア、フィリピン、サモア、スペイン、ポルトガル、インドシナ、フィジーなどからの生徒がいる。クラスの2/3が **ESL** のプログラムに参加する。この学校ではハワイ文化の授業もある。

この地域が特に移民の生徒が多い理由は、近くにアパートが多くある為、移民者が先

ずこの地域に引っ越してくる事が多い。所得は中の下～中の中の家が多く、**welfare lunch** を受ける生徒が多い。放課後イオラニ高校の生徒が来て、宿題を手伝う のカリキュラムがある。

**ESL** には6人の先生(その内2人が **full time**)がおり、1対6～7人で授業を行なう。**Reading/writing** の時間だけ **ESL** に移動し、45分x2クラス/日を受ける。

英語以外の言葉を少しでも話す生徒は、入学の時 **ESL** のテストを受ける。**ESL** のクラスを終了するためには、**LAS** のテストをパスする必要がある、パスしても2年間はクラスの成績を見て、少しでも問題があれば **ESL** に戻す。ブッシュ大統領になってから、高校での退学を減らす為、'No child Left behind'ポリシーが掲げられている。

今まで、イリノイ州やテキサス州でも、小学校の授業を見学させていただいたが、大体、2～3年で **ESL** クラスから普通クラスに戻す事を目標としているところが多い。しかし、ここでは、1年間で **ESL** を終了する生徒もいれば、**K~5**年生までずっと **ESL** にいる生徒もいるという。この違いは、移住前の準備をしてきた生徒、家庭でのサポートがある生徒は比較的英語の上達が早いという。つまり、親の意識が高いか低いかの家庭環境に左右されるところが大きいという。

どこの国でも親が学校や教育に関心が高いほど、教育的効果は高いと言えそうだ。